

第1回 ゼロメートル地帯の命を守る防災対策検討会

日時：令和6年11月5日(火) 10:00~12:00

場所：さいたま新都心合同庁舎2号館 大研修室5A（オンライン併用）

議事概要

1. 検討会規約について

○検討会規約（案）について事務局が説明し、承認された。

2. 主な意見

○検討エリアは、長期間の浸水が想定されているため、浸水継続時間を短縮することが重要であり、その具体的な方策について検討できることを期待する。

○今後、排水計画を検討する際は、排水ポンプ車の確保状況、同時破堤、ハイドロなど、複数のシナリオでケーススタディすることも重要。

○排水計画の検討にあたっては、まずは1つのシナリオで基本となる対応を検討し、そのオプションを考える中で、複数のシナリオが必要になった時に増やしていくアプローチが良いのではないかな。

○浸水継続時間図は、14日以上が最大となっているが、3週間、1か月、1か月半では様相が違うため、最大で何日続くのかを明示することで、物事の深刻さが伝わり、実りのある議論につながるのではないかな。

○災害対応では目標を設定し、その目標に対して何をすべきか考えることが重要。例えば浸水被害の場合、体が濡れると低体温症による死亡のリスクが高まるため、1階建ての建物では地上から約1.5m、2階建ての建物では地上から約4.0mの浸水深がクリティカルラインとなることから、命を守る観点として、これらも目安に検討してほしい。

○救助でも、決壊直後の緊急的な救助、避難所に垂直避難した方の救助等、時間軸が異なる様々なケースがある。避難、救助及び物資提供について、時間軸を踏まえ整理した上で、議論する方がよい。

○今後の排水計画の検討と合わせ、その浸水域の減少が防災行動にどのように役に立つのか、具体的に記載するとよい。

○排水施設が稼働しない条件において、浸水位が低下するメカニズムを示してほしい。